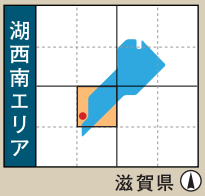
名勝史跡
国指定

円満院庭園（えんまんいんていえん）

大津市園城寺町　昭和9年12月28日指定



三井三門跡の一つに数えられる円満院は、平安時代に開創された格式の高い寺院です。宸殿に面する広大な庭は、17世紀頃の作と見られ、植え込みの花や、石組は、山麓の樹林を背景とし、四季折々の美しさを醸し出しています。

当時のできごと	
1040年	和漢朗詠集成る
1647年	ポルトガル船 長崎に来航
1649年	農民法度（慶安御触書） が出される



円満院庭園

円満院について

円満院は、長久元年（1040）に園城寺（三井寺）の僧明尊が開創し、彼の住坊を天皇御願の堂とし、円満院と号したことに始まると伝えられます。その後、延暦寺による焼き討ちに遭いますが、寺は三井寺内の平等院に受け継がれ、歴代の皇族が入室する門跡となります。円満院の門跡は代々平等院と号し、後には宇治の平等院をも管掌するようになり、百人一首の詠者の一人行尊大僧正や「鳥獣戯画」で知られる鳥羽僧正、円山応挙との親交が深かった祐常大僧正などの高僧を輩出しました。

現在の宸殿は正保4年（1647）に明正天皇（在位1630～1643）の御殿を賜ったもので、桃山期の特色をよくとどめた建物として重要文化財に指定されています。この建物は、明治初年（1868）には大津県庁舎として使われました。



宸殿の中から見る



仏石と礼拝石



円満院　宸殿

円満院庭園

この庭園は、宸殿が移築された頃の作と考えられます。庭園は大きな池を配し、池には宸殿から見た正面に蓬莱山を、左右に亀島、鶴島を置き、鶴島には巨大な石橋が架けられます。また、蓬莱山の背後の築山中腹には巨石を立て、仏に見立て、宸殿の縁近くに平らな礼拝石を置きます。池の西には滝石組とこれに続く流れの石組、そして築山の前や池の護岸として多くの石が配されています。

関連する文化財

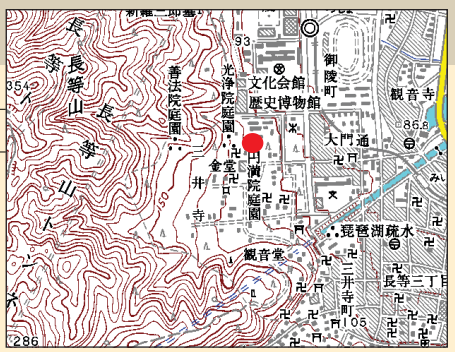
円満院宸殿	明正天皇の御殿を賜ったもの。 桃山期の御殿建築の様式を示す
名勝史跡光浄院庭園 （大津市）	学習シートNo.107

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館	☎077-521-2100　大津市御陵町2-2
大津市教育委員会	☎077-528-2638　大津市御陵町3-1

円満院庭園へのアクセス

JR湖西線　西大津駅下車
京阪電鉄石坂線　別所駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔日本庭園史体系〕社会思想社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月